

日本臨床検査専門医会の歩みと活動

会長 渡辺 清明

臨床検査専門医制度の歩み

1951年、日本臨床検査医学会(旧日本臨床病理学会)の前身である臨床病理懇談会の第一回の会議で「臨床検査を専門職とする臨床病理専門医が必要である」との話合がなされた。ここに初めて専門職としての検査医の概念が専門家の間で浮上したとされる。その後、臨床病理懇談会は臨床病理学会と改称されたが、この間さらに専門医制度の具体案の検討が行われ、1955年の第2回日本臨床病理学会総会で「臨床病理専門医」の名称が正式に議題にあがった。そして、臨床病理専門医の設定について(臨床病理 3:342~344, 1955)の趣意書が作成され学会総会の承認を得た。

ただ現実には、臨床病理専門医制度を具体化するには、研修施設の整備や研修指導者の十分な配備、卒後教育体制の整備などを行う必要性が生じていた。残念ながら、当時はこれらの整備に対する対応は非常に遅々として進まなかった。

しかし、1966年頃からいわゆる学生運動が盛んになり医学部改革運動の中で、卒後教育の在り方が論じられるようになり、この中で専門医制度についても検討される状況になった。これを機に、日本臨床病理学会でも再び専門医制度案の推進を図る事になった。

しかしながら、臨床病理医の研修過程の中で病理形態学の修練が必要とされ、また病理では認定病理医を作るべきとの意見もあり、これらについて日本病理学会との整合を図る作業が必要となった。また、例えば名称を「認定臨床病理医」にすると「認定病理医」と紛らわしいなどの意見もあり、1969年頃よりその後約10年間にわたり臨床病理学会と病理学会との折衝が行われた。紆余曲折の議論の結果、1979年に日本臨床病理学会の認定医制度は発効され、名称は「認定臨床検査医」と決まった。この年、認定臨床検査医は学会の資格認定委員会で慎重審議を経た後に、過渡的措置として無審査で認定され、ここに我が国ではじめて「認定臨床検査医」が産声をあげた。過渡的措置は5年間で終了したが、その数は合計219名であった。

1984年からは試験による選抜が開始され、第1回の認定試験は同年8月に東京医科大学主催の下で実施された。その後、本試験が毎年実施されているのはご承知の通りである。

1996年に「検体管理加算」が新たに保険収載されて、その後認定臨床検査医の受験者数は急に増加し、本制度が漸く臨床検査業界に根付いた感が出てきた。2001年には、認定制度を敷いている学会が加盟している学会認定医制協議会から研修期間5年間の学会認定・専門医は専門医に統一する事を要望されたため、認定臨床検査医の名称はこの年度から臨床検査専門医に改称になり、制度名も臨床検査専門医制度となった。

この間、学会認定医制協議会は専門医認定制度協議会に名称変更され、さらに2002年には日本専門医認定機構となった。この機構の目的は学会相互間の協力と連携・交流を図り、社会に信頼される専門医制度の確立、専門医の育成、認定およびその生涯教育などを行うことを通じて、医療の質の向上をめざすことであり、専門医制度の我が国の元締めである。

臨床検査専門医およびその制度は基本領域のものとして、2007年にこの日本専門医認定機構で正式に認知され、確かな位置づけを得て現在に至っている。

日本臨床検査専門医会の発足と経緯

1977年に、都内の私立大学臨床病理学教室の若手検査医が集まって勉強会を行っていた。これは「若手臨床病理医の集い」と称され、臨床病理学の教育内容を相互に補うものであったが、これが日本臨床検査専門医会の起源となる。

上記のように1979年に日本臨床病理学会の認定医制度が発効されたので、これを機会に臨床検査ギルド集団の会の設立の機運が高まった。

1982年10月、第29回臨床病理学会総会(岐阜グランドホテル)で「若手臨床病理医の集い」は「臨床検査談話会」と呼称を変えて第1回の会合を開催し、検査医の職能団体としての会が立ち上がった。同年11月にこの談話会の名称を「臨床検査医会」とする旨、代表幹事から日本臨床病理学会に文書で要望がなされたが、学会幹事会ではこれに関する議論はなされなかった。

1983年5月に本会は代表に村井哲夫先生を置き、正式に「臨床検査医会」として発足した。したがって、この時点が日本臨床検査専門医会の発足時期となっている。

その後も本医会と学会との関係は明確にされないままに時は過ぎて行ったが、1984年からは認定試験も開始され、「臨床検査医会」は総会や講演会を学会総会中に開催しそれが定着していった。

1990年に「臨床検査医会」から学会へ両会との関係を明確化しよう申し入れが行われ、学会がそれを認め両会が相互に協力する事が承認された。同年4月に会の名称は「日本臨床検査医会」と変更され、幅広く全国から幹事を選出し新会長に河合 忠先生が就任した。

その後、本会は順調に発展し当初 80 名で発足した「検査医会」も年々会員数が 増加し、「日本臨床検査医会」への移行期には 230 名程になった。

2000年に日本臨床病理学会が名称変更を行い日本臨床検査医学会となった。この際、「日本臨床検査医会」の名称が日本臨床検査医学会と類似している事から名称の変更の必要が生じた。2003年に本会は「日本臨床検査専門医会」に名称変更し現在に至っている。

なお、表 1 にここまで本会の発展に寄与された歴代会長、常任幹事、全国幹事などの役員の先生方の氏名を掲げた。

また、本会のマネージメントの中心である医会事務所は、従来会計庶務担当幹事の所属機関に設置されていたが、2004年11月より御茶ノ水に正式に開設され、専任職員が従事する事になった。

表 1 . 日本臨床検査専門医会 (役員)

名 称	臨床検査医会	日 本 臨 床 検 査 医 会					
		1987~89	1990~91	1992~93	1994~95	1996~97	1998~99
代 表	村井 哲夫	会 長	河合 忠	河合 忠	河合 忠	大場 康寛	大場 康寛
		会 長 補 佐	村井 哲夫				
		副 会 長		大場 康寛 村井 哲夫	大場 康寛 村井 哲夫	森 三樹雄 桑島 実	森 三樹雄 桑島 実
常任幹事 ・ 庶務・会計 ・ 事務書記	森 三樹雄 佐守 友博	常任幹事 ・ 庶務・会計 ・ 出版・情報 ・ 教育・研修 ・ 会則資格 ・ 渉外 ・ 未来ビジョン ・ 保険点数 ・ 専門医在り方	森 三樹雄 皆川 彰 中野 栄二 河野 均也	森 三樹雄 町田 勝彦 熊坂 一成 村井 哲夫 大場 康寛	岡田 淳 町田 勝彦 熊坂 一成 村井 哲夫 大場 康寛	岡田 淳 土屋 達行 森 三樹雄 戸谷 誠之 桑島 実	高木 康 土屋 達行 森 三樹雄 戸谷 誠之 桑島 実
全国幹事	猪狩 淳 池松正次郎 大谷 英樹 桑島 実 五味 邦英 戸谷 誠之 中野 栄二 橋本 琢磨 松田 信義 皆川 彰	全国幹事	黒川 一郎 伊藤 忠一 大谷 英樹 五味 邦英 戸谷 誠之 菅野 剛史 古田 格 佐守 友博 松田 信義 桑島 実 小林 利次 猪狩 淳	黒川 一郎 伊藤 忠一 櫻林郁之介 高木 康 戸谷 誠之 菅野 剛史 上田 國寛 佐守 友博 神辺 眞之 桑島 実 岡部 紘明	松野 一彦 吉田 浩 櫻林郁之介 高木 康 中原 一彦 櫻川 信男 上田 國寛 宮 哲正 古田 格 神辺 眞之 佐々木匡秀 岡部 紘明	松野 一彦 吉田 浩 伊東 紘一 池田 育 中原 一彦 渡辺 清明 宮 哲正 櫻川 信男 松尾 収二 佐守 友博 古田 格 上田 尚紀 佐々木匡秀 濱崎 直孝	渡辺 直樹 伊藤 忠一 櫻林郁之介 西堀 眞弘 池田 育 水口 國雄 渡辺 清明 橋詰 直孝 熊坂 一成 中島 伸夫 松尾 収二 佐守 友博 清水 章 上田 尚紀 影岡 武士 濱崎 直孝
監 事	河野 均也 藤巻 道男	監 事	河野 均也 藤巻 道男	河野 均也 藤巻 道男	河野 均也 森 三樹雄	河合 忠 河野 均也	河合 忠 河野 均也
						JCCLS 評議員	桑島 実

なお、現在も本会の会員数は増加しつつあり、2008年9月29日現在の会員数は706名で、うち専門医は561名となっている(図1)。

主な活動

1)会議

会議には総会、全国幹事会、常任幹事会、各種委員会がある。

総会は毎年日本臨床検査医学会学術集会に合わせ、多くはその前日に開催され、本会の重要課題を審議・決議する。

全国幹事会は日本臨床検査医学会の7支部を中心に選出された幹事をもって構成し、多くの基本的な方針や対策を審議している。常任幹事会は会長、副

会長、常任幹事、監事より構成され、執行ラインでの本会の発展に関連する事象を企画・立案している。委員会としては現在6委員会があり、各々鋭意活動をしている。昨年まであった未来ビジョン検討委員会は発展的解消を行い、今年度より在り方委員会が新設され臨床検査医の今後の在り方を議論している。

2)セミナー

(1)教育セミナー：1984年に「臨床検査医」の最初の認定試験が行われたのを機に、1985年から認定試験を念頭においた臨床検査医としての最低限必要なエッセンスを習得するための教育セミナーが開始された。臨床検査医学は非常に領域が広く各分野の詳細についての勉強をする事が難しく、また認定試

の変遷(1987～2009年)

日本臨床検査専門医会			
2002～03	2004～05	2006～07	2008～09
河野 均也	森 三樹雄	森 三樹雄	渡辺 清明
森 三樹雄 渡辺 清明	神辺 眞之 吉田 浩	熊谷 俊一 水口 國雄	熊谷 俊一 渡邊 卓
土屋 達行 森 三樹雄 熊坂 一成 渡辺 清明 村井 哲夫	土屋 達行 石 和久 玉井 誠一 橋詰 直孝 池田 育 谷 直人	佐藤 尚武 石 和久 宮地 勇人 橋詰 直孝 池田 育 谷 直人 水口 國雄	佐藤 尚武 矢富 裕 宮地 勇人 土屋 達行 佐守 友博 渡辺 清明 村田 満
伊藤 喜久 富永 真琴 玉井 誠一 中原 一彦 宮 哲正 勝山 努 清島 満 藤田 直久 石田 博 岡部 紘明 荻原 順一 木村 聡 山田 俊幸 下 正宗 満田 年宏 前川 真人 尾鼻 康朗 高橋 伯夫 猪川 嗣朗 上平 憲	伊藤 喜久 木村 聡 満田 年宏 尾鼻 康朗 猪川 嗣朗 上平 憲 諏訪部 章 北村 聖 一山 智 小野 順子 荻原 順一 山田 俊幸 前川 真人 清島 満 石田 博 渡辺伸一郎 村上 正巳 尾崎由基男 岡部 英俊 渡辺 清明	一山 智 岡部 英俊 尾崎由基男 小野 順子 北村 聖 諏訪部 章 村上 正巳 渡辺 清明 渡辺伸一郎 市原 清志 今福 裕司 大谷 慎一 小出 典男 犀川 哲典 三家登喜夫 館田 一博 橋本 琢磨 深津 俊明 藤田 直久 前川 真人 松野 一彦 満田 年宏 宮澤 幸久 藤田 直久 松野 一彦 保嶋 実	市原 清志 今福 裕司 大谷 慎一 康 東天 木村 聡 熊坂 一成 小出 典男 犀川 哲典 三家登喜夫 館田 一博 橋本 琢磨 深津 俊明 藤田 直久 前川 真人 松野 一彦 満田 年宏 宮澤 幸久 保嶋 実 山田 俊幸
河合 忠 大場 康寛	高木 康 中原 一彦	玉井 誠一 濱崎 直孝	高木 康 水口 國雄

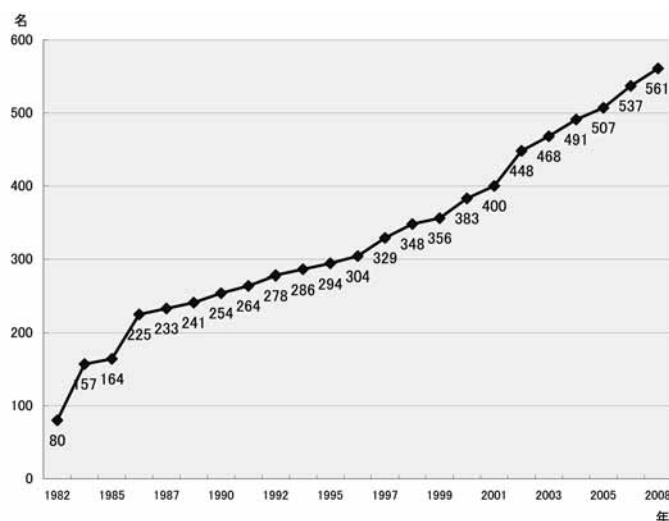


図1 日本臨床検査医学会認定の臨床検査専門医数

験では実地試験が厳しく行なわれるので、本セミナーは効率的に臨床検査の各分野の知識や技能を生で理解するために極めて有用な位置づけを持った。

毎年、主に東京の私立大学を中心に年3~4回セミナーを開催し、一部関西でも実施してきた。これは現在も臨床検査専門医の認定試験受験者用のセミナーとして引き続き開催されている。

今後本教育セミナーを今の形で継続する事には議論が必要かもしれないが、今まで多くの臨床検査専門医にとって本セミナーで得た経験は大変有用となっている。

(2)賛助会員セミナー：振興会は本会の主旨に賛同する振興会員(主に臨床検査関連の企業)で構成されている。振興会からは日頃から支援、特に経済的支援を頂いており、本会に不可欠なものである。

従来、振興会への感謝の気持ちで、本会メンバーが振興会の方々に臨床検査の医学的あるいは最新の情報を提供する目的で開催しているのが振興会セミナーである。時には臨床検査行政に関する情報を提供し、振興会員からも好評を得ている。

このように振興会は長く本会になじんだ名称であったが、2008年度の会則改定で振興会員は賛助会員に変更になったため、現在のところ振興会セミナーは賛助会員向けセミナーと呼称されている。また、2008年は本会設立25周年の節目でもあったので、賛助会員向けセミナーは本会設立25周年記念式典と共に開催された。

3) ワークショップ

(1)GLM ワークショップ：臨床検査専門医にとっては、質の高い検査成績を臨床へフィードバックするための臨床検査室の管理運営が極めて重要である。この専門医の業務をブラッシュアップする目的で、臨床検査専門医に重要な実践的課題についてのワー

クショップを行う事になった。

1993年に自治医科大学の研修センターで1泊2日のスケジュールで初めて開催され、その名は目的にちなんでGLM(Good Laboratory Management)と呼ばれている。ワークショップでは主にGLMのためのポイントを十分に習得する事を目指して行われてきた。一泊するため、夜以降の酒席を囲みながらの意見交換も貴重な臨床検査管理の情報源となった。

2004年からは専門家の講義形式によるGLM教育セミナーに形を変えて毎年開催される事となり、現在に至っている。

4) 春季大会

1991年4月に第1回春季大会を、大場康寛先生の主催の下京都で開催して以来、18回にわたり毎年春季大会が開かれている(表2)。この春季大会では臨床検査のマネージメント、在り方など臨床検査専門医に日頃必要な事象について講演が行われ議論されている。また、臨床検査医学は広域であるため、各分野の専門の先生からの最新のトピックスを解説して頂き相互の理解を深めると共に討論がなされている。

5) 情報・出版

本会が臨床検査専門医としての情報交換に最も重要視してきたのが出版活動である。主に情報出版委員会の尽力により以下の出版物が発刊されている。

(1)JACLaP NEWS：1991年より、会員の動向、委員会議事録、年間スケジュール、人事異動および最新の臨床検査関連などのニュースを届けている。当初は年4回の出版であったが、1993年より年6回発刊され、まさに文字通り最新の情報をいち早く提供している。2008年度には発刊100号となり、記念号が発刊された。

また、新規保険収載された検査のまとめが共に掲

表 2 日本臨床検査専門医会春季大会

回	会長名	機関名	開催場所	開催日
1	大場 康寛	近畿大学	京都・都ホテル	1991年4月2日
2	河野 均也	日本大学	東京・日大医学部記念講堂	1992年3月28日
3	佐々木匡秀	高知医大	高知・高知医大臨床講義室	1993年2月12日
4	黒川 一郎	札幌医大	北海道・ロイトン札幌	1994年6月3日
5	菅野 剛史	浜松医大	愛知・名古屋市中小企業会館	1995年4月2日
6	神辺 眞之	広島大学	広島・広島国際会議場	1996年3月31日
7	森 三樹雄	獨協医大	東京・東京ガーデンパレス	1997年4月25日
8	櫻川 信男	富山医科薬科大	富山・ポルフォート富山	1998年4月24日
9	渡辺 清明	慶応大学	東京・慶応大学病院講堂	1999年5月30日
10	渡辺 直樹	札幌医大	北海道・札幌医大講堂	2000年4月22日
11	巽 典之	大阪市立大	大阪・大阪市大医学部大講堂	2001年4月21日
12	濱崎 直孝	九州大学	福岡・九州大学コラボセンター	2002年4月20日
13	富永 真琴	山形大学	山形・山形テレサ	2003年4月19日
14	小出 典男	岡山大学	岡山・ピュアリティまきび	2004年4月10日
15	高橋 伯夫	関西医大	大阪・大阪市中央公会堂	2005年4月9日
16	村上 正巳	群馬大学	群馬・ホテルメトロポリタン高崎	2006年4月22日
17	伊藤 喜久	旭川医科大学	北海道・旭川グランドホテル	2007年6月2日
18	熊谷 俊一	神戸大学	兵庫・臨床研修情報センター	2008年5月31日

載されており、日常検査業務にも寄与している。

(2)JACLaP WIRE：一層迅速な臨床検査関連情報を知らせるために構築された電子メール新聞である。1998年4月から会員にE-メールで送信されている。とくに質疑応答の部分が重宝がられているので、継続連載する予定である。現在、本WIREは年10～12回程度送信している。

(3)会誌「Laboratory and Clinical Practice」(通称Lab CP)は1983年より発刊されている。

年2回の発刊で、会則や会員住所録などを掲載した「日本臨床検査専門医会要覧」を2年に1回発刊している。

Lab CPは従来臨床検査の最新トピックス、春季大会や総会時の講演、GLM教育セミナー、RCPC

などを掲載してきたが、2009年度からは情報出版委員会の下で新たに編集方式を変えて、臨床検査関連の特集号として年2回の発刊を予定している。

参考資料

- ・日本臨床病理学会史、日本臨床病理学会、1985
- ・日本臨床検査医学会 50周年記念史、日本臨床検査医学会、2002
- ・河合 忠が語る 臨床病理史 世界の中の日本、国際臨床病理センター、2001
- ・日本臨床検査専門医会要覧、日本臨床検査専門医会、2006